

経腔・経腹超音波下胚移植時にカテーテルに認められる血液と妊娠率との関連

○林 祐希、宮本 有希、井崎 顕太、関藤 孝昭、大住 哉子、富田 和尚、幸池 明希子、井上 朋子、森本 義晴

HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】胚移植後のカテーテルに血液が認められると妊娠率が低下するとの報告がある。当院でも胚移植後のカテーテルに一定の割合で血液が認められる。また当院では経腔超音波下胚移植（以下、経腔）に加え、経腔では胚移植困難な症例や患者の希望により経腹超音波下胚移植（以下、経腹）も実施している。そこで、カテーテルに認められる血液の有無が経腔、経腹で妊娠率に影響を及ぼすか検討した。

【対象・方法】2017 年 8 月～2018 年 12 月に初期胚・胚盤胞を含む単一胚移植を実施した 308 周期（経腔 250 周期・経腹 58 周期、40 歳未満、胚移植時内膜厚 8mm 以上）を対象とした。胚移植後のカテーテルに血液が認められたものを出血有りとし、経腔・経腹における出血率、出血の有無によるそれぞれの妊娠率・流産率を比較検討した。統計解析には t 検定または  $\chi^2$  検定を用いた。

【結果】経腔・経腹間において妊娠率に差はなく (38.4% vs. 41.4%)、それぞれの平均年齢 (34.8 歳 vs. 34.6 歳)・胚盤胞移植率 (45.6% vs. 56.9%) に有意な差は認められなかった。出血率は、経腔 18.8% (47/250)、経腹 31.0% (18/58) と経腔で有意に低かった ( $p < 0.05$ )。経腔における妊娠率は出血有り・無しでそれぞれ 23.4% (11/47)、41.9% (85/203) と、出血無しで有意に高かった ( $p < 0.05$ )。流産率は 31.3% (5/16)、15.8% (16/101) と有意な差は認められなかった。一方、経腹における妊娠率は出血有り・無しでそれぞれ、38.9% (7/18)、42.5% (17/40)、流産率はそれぞれ 22.2% (2/9)、26.1% (6/23) と全てにおいて有意な差は認められなかった。

【結論】経腹における出血率は経腔に比べて高かったが、出血の有無による妊娠率への影響は認められなかった。しかし、経腔における出血は妊娠率低下への影響が示唆された。また流産率に関しては、経腔・経腹共に出血の有無による影響は認められなかった。従って、経腔時には特に出血を起こさないよう細心の注意を払う必要性が示唆された。